

大田区自立支援協議会 相談支援部会要旨

文責：小嶋（障がい者総合サポートセンター一部修正）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 相談支援部会（第6回）			
(2) 開催日時	平成28年10月5日（水）9:30～12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5階多目的室			
(4) 出席した委員、事務局	委員（部会長：森山委員）			
	志村 陽子	森下 繁	小野 英次郎	平井 有希子
	田中 隆博	今崎 牧生	栗田 総一郎	内海 玄宗
	小嶋 愛斗	大窪 恒		
	区職員出席者 大谷係長（大森地域福祉課） 高木係長（調布地域福祉課） 七尾係長（糎谷・羽田地域福祉課） 鈴木係長（大森地域健康課） 梅實係長（調布地域健康課） 井上係長（上池台障害者福祉会館） 関係者 林 倫子（障がい者総合サポートセンター相談支援部門）			
事務局出席者 障がい者総合サポートセンター：江波戸係長、星、齋藤（愛）				
(5)内容・要旨	1、2は省略 3、確認事項 ○前回の議事録・意見出しカードの確認 ・前回の部会后、連絡会おたへの情報共有を行った。 ○第2回自立支援協議会の参加について 日時：平成28年10月24日（月）13時30分から15時30分 場所：さぼーとぴあ5階 多目的室 4、本日の議題 「中間報告に向けて」相談支援部会の報告内容など ○「中間報告（案）」の説明（別紙パワーポイント6枚） ・相談支援部会の検討課題（スライド2枚目） ◇大きく2つ。個別支援会議を通じての地域課題の抽出と基幹を中心とした相談支援体制の構築について ・個別支援会議を通じて（スライド3枚目） ◇個別支援会議を通じて抽出された地域課題の説明 ◇個別支援会議の説明をわかりやすくするため、計画相談シートや抽出結果シートを資料添付すべきか。 ・サポートセンターを含めた連携体制の取り組みの内容（スライド4枚目） ◇基幹相談支援センターの役割の確認 ◇サポートセンターの現状と課題 各事業所の状況などの集約が必要 相談支援事業所以外の地域の相談機関との連携を進める必要がある。 ・基幹を中心とした相談支援体制の構築に向けて（スライド5枚目） ◇サポートセンターによる相談支援事業所のマネジメント			

救急病院のイメージで基幹相談支援事業所を捉える。

◇相談支援事業所やその他の機関につなげる役割

「連絡会おおた」を通じて各事業所の状況を把握する。

地域の民生委員などと連携が取れるように情報発信や顔つなぎの場を作る。

- ・後期の取り組み（スライド6枚目）

◇個別支援会議の継続

◇相談支援体制の構築からみた推進プランの点検・評価

◇他部会との連携についての検討

○中間報告（案）に対する意見

- ・パワーポイントのスライドのレイアウトについて、誤字の確認。
- ・個別支援会議の具体的なイメージをもってもらうため、計画相談シートや抽出結果シートの様式を資料添付したほうがわかりやすい。
- ・この様式は、これまでの個別支援会議の中で徐々に修正されたものであるもので、そのことの説明もしてほしい。
- ・障がいのがいの字については、様々な意見があることを認識した上で、大田区の表記に合わせるのはいかがでしょうか。
- ・基幹相談支援センターの役割（スライド4枚目）中の「虐待の防止」について、抽象的ではなく具体的に行っている研修会の実施や通報の窓口となっていることを記載したほうがよいのではないか。
- ・同ページの「障がい当事者による相談支援としてピアカウンセリング」について、相談支援に限定しないほうがよいのではないか。
- ・サポートセンターが行っている啓発活動（小学校教員による見学会等）の説明もしたほうがよい。
- ・基幹相談支援センターとその他の機関の連携（スライド5枚目）について、連携機関は連絡会おおたや民生委員に限定する必要はない。
- ・今後はエリアを意識した連携も必要である。
- ・連絡会おおたを初めて聞く方もいると思うので、分かるように資料の添付もしくは口頭で説明したほうがよいのではないか。
- ・昨年度の取り組みと連動させて本年の報告ができればよい。

○今後に向けて

- ・各部会との情報共有についての検討
- ・委員の所属団体・組織との情報共有についての検討
- ・自立支援協議会が制度の不備を指摘するものではないとの認識のもと、制度や政策の再確認が必要ではないか。
- ・基幹相談支援センター中心の相談支援体制の構築。各相談支援事業所との連携調整や基幹相談支援センターのERとしての役割について。

○上記意見を踏まえ、中間報告内容を修正し最終決定する。

○第7回

日時 11月2日（水） 9時30分から12時

場所 さぼーとびあ 5階多目的室